

第6回 豊川市公共施設適正配置計画策定委員会

日時：平成27年2月12日（木）

午前10時から

場所：豊川市役所 委員会室（本庁舎3階）

1 開会

出席 委員10名、事務局7名、傍聴8名

2 議事

（1）第5回豊川市公共施設適正配置計画策定委員会での意見

事務局	資料1の説明。
委員長	皆様方のご意見はいかがでしょうか。前回出されたご意見が網羅されていると思います。 それでは議題3の検討の中でも対応関係があると思いますので、そのときにご意見をお願いします。

（2）豊川市公共施設適正配置計画のリーディング事業及び計画推進の課題について

事務局	資料2、3の説明。
委員長	リーディング事業の考え方とイメージの資料2についてご意見はいかがですか。
委員	本庁のセンター機能と支所機能のあり方の検討とありますが、それぞれの機能をどのように捉えているのでしょうか。具体的に説明してください。
事務局	本庁のセンター機能は、事務分掌の規定で書かれているとおりです。支所についても、それぞれ同様ですが、地域に根ざした支所機能はどうあるべきか、今の支所体制で検討されています。その結果を踏まえて、各地域に残す機能を整理していきたい。センター機能とは市全般の行政機能です。
委員	現状と変わらないということですか。例えば、防災の消防機能はセンターに置くのだろう、そうじゃない部分は見直すということだと思っていました。本部と各地域の拠点として見直すということではないのですか。
事務局	ハード面の調査も踏まえて総合的に行っていきたい。支所については強化すべき機能もあるという議論もあると思いますが、それについては整理して、結

	論が出た上で議論を進めたいと考えております。
委員	ワンストップサービスにこだわらず、業務ぶり、組織再編を考えた上で、分散機能を構築していただきたい。
事務局	支所機能は、現在も支所で議論を行っております。来年度組織の見直しがあり、現在は住民票の窓口、地域住民の福祉、ごみの問題をお聞きしています。議論をもう少し進めていかないと答えは出ません。今、現在も7、8名の職員しかいません。従来の4町のままの支所で、今後一箇所を進めるのか、分散するのかという議論はありますが、市としては、ワンストップサービスで集約したいと考えております。支所をどうするかは来年度の議論であり、今現在は施設として課題があり、これをどうするか、コミュニティが入る余地があるのでは、施設の老朽化度など、再編の中で考えていきます。
委員	組織の再編に期待したい。
委員長	支所機能については、今後議論の余地があるかと思います。基本的な考え方は、上下水道、教育委員会など、本来は本庁舎にあっていい機能を本庁舎にいずれ集約していくという考え方でしょう。
委員	支所機能については、来年度でということですが、そういう考えは行政の中で決めていくのですか、住民の考えを聞く機会があるのですか。音羽庁舎の教育委員会、一宮庁舎の上下水道部など、それらを集約することが大事ならそれでよいが、結論が出たことではないと思います。結論が出たことなのか確認したい。
事務局	地域住民の声を聞いて支所機能は決めていきます。一宮庁舎、音羽庁舎はできればワンストップと考えていますが、そのためには本庁舎をどうするかを踏まえて考えないといけません。今すぐに集約化ということではありません。ワンストップサービスがいいのかどうか、アンケートでも市民の声を聞いていきます。今の所、ワンストップの方が便利だと考えて提案しています。
委員	この策定委員会は合併してそのままがいいのか、また教育やインフラの面は住民の不便があってはいけないが、カットすべきことはカットし、集約することを討議する場です。それぞれが分かち合い、無駄を省くことが一番大事であり、適正配置にするためにどうするのか。このままでいいのか。司令塔がどこにあったらいいのか。豊川市を束ねていく所がどこにあるのか、一番の課題です。

事務局	一つにまとめることを念頭に置きながら、支所のあり方など考えます。
委員	今まで通りではいけないという認識が必要です。
委員長	その認識で委員会を進めてきました。 今後は、実行体制、推進体制、住民の意識や希望を踏まえながら進めていく、ここではそういうことしか言えない。今後の全体的な推進を住民も含めて、どのようにチェックしていくかが重要です。
委員	今、他市で新しい庁舎建設にこれまで5年ぐらい関わっています。それくらいのスパンで見ないといけないと結論が出ません。ドッシリと構えてやっていただきたい。
委員	学校の空き教室がありますが、以前、空き教室を空けてくれと申し入れた所、断られたことがあります。現在、空き教室の把握はどうなっているのですか。コミュニティ施設として使われているのですか。空き教室の活用は民間も含めた意味合いで言っているのですか。
事務局	空き教室についてですが、教育委員会では空き教室は無いという回答です。但し、細かく、利用状況を整理すると、余剰スペース、効率的に使えるスペースはあります。今後人口や児童が減っていくと空き教室が出てきます。このたびのリーディング事業でも小中学校を挙げており、連携してやっていきたいと考えています。民間活用について、管理面の活用などいろいろな手法があります。管理を含めて、資料3になる部分で今後の展開を考えたいと思っております。
委員	東京電機大学が小中学校を借りてインキュベーション施設に活用している事例があります。そういう可能性はあるのではないかと。
委員	愛知県内の市町村で空き教室について調査をしたことがあります。教育委員会と合意を得ていくことが重要です。
事務局	部局横断に調査しながら、素案作成を進めています。今後も、部局横断的に、組織も含めて考えていきます。
委員	現行は、校舎改築・改修の予算が付くと、子どもたち優先のスペースにしています。東部中学校の改築が行われたが、新しいミーティングスペースがあって、地域の人でも使えるようになっています。教育委員会自体が校舎を改築・改修する際に意識をしています。
委員	管理運営面の効率化というのは、学校の先生には不安が残るものです。利便

	<p>性の向上は良いことだし、空き教室をうまく使えることは素晴らしいが、例えば学校中にある備品の管理はどうなるのか。一般の人が入ると夜間利用も考えられます。社会教育の充実を図る中で体制をきちんとしなければ、いろいろな問題が出てきます。先生は備品管理に一番悩むだろうし、子どもと一緒にの入口でもいいのかとかなど、今後の課題ではあるが、どのように考えているのですか。</p>
事務局	<p>学校はまず学校教育の場という本旨があり、そこからの複合化、多機能化を検討していくものです。委員の方のご意見も踏まえて、教育委員会と話しながら、進めていきます。</p>
委員	<p>学校をどのように作るのか。普通教室が並んでいるだけではない、パブリックなスペースが確保され、改築・改修でもいろいろなことができます。セキュリティの問題として、当然入り口は分ける、住民が入れないエリアは作ります。今までどおりの学校を作るという考え方では多機能化に対応したものにはなりません。発想を変えて設計を発注していくことが重要です。住民と合意形成する中で、コミュニティスクールが出来ていく経緯がある。そうやって進めて欲しいです。</p>
委員	<p>学校の体育館と校舎は別かもしれないが、体育館は有料で借りることができる。地域で鍵を管理するやり方をしている地域に施設があるなど、柔軟にしていけば学校施設も同じ考え方で使っていけます。児童クラブの部屋と、コンピュータ室には人が行かないように、鍵の管理、時間になったら柵を降ろすとか、方法はあります。どういう風にしたいかを先に決めることが大事です。</p> <p>庁舎については、地域の方との説明会で話をしていくのですか。支所的な機能として、地域住民が窓口として利用します。教育委員会は市全体の人へのサービス機能であって、音羽庁舎にあっても一宮の人も行く、上下水道も一宮庁舎にあっても音羽の人も行きます。市全体の人を使うものは、市民全体の意見で決めないといけないと思います。それがセンター機能と支所機能あり方の検討で必要なことです。</p>
事務局	<p>センター機能は市民全体の機能で、広範な意見を聞いてやっていきたい。支所そのものは地域の方々と中心に合意形成しながら、総合的に進めていきます。</p>
委員	<p>新規整備は行わずという文言ですが、管理体制のとき困るのでは。新しいも</p>

	のを作らないという意味ですか。
事務局	建替えをすることはあります。今後いろいろな行政需要が出てくる可能性はありますが、原則新たな建設はしないということです。
委員長	資料3の課題も含めて意見ををお願いします。
委員	これまでの取り組みの中に、市民アンケート実施があります。これから幅広い協議、地域の人々の意見を取り入れて、25年度のアンケートはどれだけ集約できたのですか。意見の多かったものがあったら教えていただきたい。
事務局	各中学校区の人数に応じて配布し、40%強の回収を得ています。一番多かったのは、全体として無駄をなくすこと。むやみになくすのではなく、多機能化、複合化を進めながら、機能を残しながら進めてほしいという意見が、住んでいる場所に問わず多い意見でした。
委員	いろいろな自治体でアンケートをしています。どの自治体でも施策に対する意見の順位は変わりません。無駄なものはなくしても良い、というのが市民の言う意見です。やってほしくないことは、利用料を上げる、サービス水準を下げることなどです。その意味での総論はどの自治体でも同じです。一方で自治体によって違うのは、利用頻度など中味が違います。豊川市の場合は、実際にどれくらい利用しているかなどアンケートから拾い出して、それを見ていくことが大事です。
委員	アンケートは25年度のそれとは別の角度で新しく行うのですか。
事務局	合意形成の方法として、例として、ワークショップ方式でやる場合もあります。内容によってはアンケートを検討することもあると考えます。
委員	資料3の中で、PDCAを廻すことは素晴らしい。ワーキンググループの考え方の所で、実際に動かす人はもう少し決定権を持っているところで評議してはどうでしょうか。これを見ると役所の方ばかりで、推進本部会議がしっかり機能するのか。中間に、有識者、地域の代表、経済界の代表の方が評議会に入れて欲しいです。構成も含めてもう少し考えていただきたい。
事務局	評価していただく方については、専門性のある方など、いろいろな角度を踏まえて検討します。
委員	市民の役割、事業者の役割の所で、事業者に民間のノウハウを期待することは良いが、総合的に考えなくてはいけない時もあり、専門家の役割も大きいです。市民と行政をつなぐ、事業者と市民や行政をつなぐ役割が大事です。成功

	事例にはそういう人が入っています。建築家や大学教授が関わることも大事です。
委員	他市でプロジェクトマネジャーをやっています。ファシリテーター、専門家、総力として体制を作っていくと良い。
委員	一番の問題は合意形成です。PRをして意見を吸い上げていただきたい。町内会長の役は一年で変わっており、人も変わっていくので、5年スパンで考えても伝わりません。内容がわかってきた時には人が変わってしまうという問題があります。
委員	ニューヨークでの都市計画を例にお話しますと、大事な3点があります。世論を啓発すること、専門家を位置づけること、発注の形骸化を防ぐこと。その3つが大事です。大都市でもできることは小さな市でもできます。今日の資料の中にそのエッセンスは入っていますが、もっと出しても良いのでは。
委員	豊川市全体を考えていけると良いと思います。そう言いつつも自分の地域にこだわってしまう、それが市民だと思います。どうやって豊川市全体を愛する気持ちに皆さんを持っていくのか。何ができるか、からまちづくりを考えることが大事です。行政にお願いしたいことは、ワークショップを開催する時は、都合よくボランティアを使うのではなく、一緒にやっていきましょう、ということを進めて欲しい。
委員	ケネディ大統領が話した、あなたは国のために何ができるのかという話だと思います。 山手線の内側のエリアのイメージが参考になると思います。豊川市の方が車のモビリティはあるので、エリアの大きさを考えるといいのではないのか。
委員長	ご意見がなければ、資料2、資料3については、委員会の同意が得られたことにします。次の議事に入ります。

(3) 豊川市公共施設適正配置計画報告書の素案について

事務局	資料4の説明。
委員長	第4章、第5章は本日の意見を踏まえて訂正していただくこととなりますが、報告書のまとめ方等についてご意見があればお願いします。
委員	表紙にもある「新たな公共施設の価値・・・」は長いのでは。キャッチフレーズは一言、西尾市では「まちづくりの第一歩としての公共施設」の1行で

	伝わります。一言で言えるキャッチフレーズにすることが大事です。
委員	新たな公共施設の価値・・・わからない。公共施設の新たな価値の方が。
事務局	この場で案を出すことは難しいので、検討させて下さい。
委員長	事務局にお考えいただきたい。
委員	シティセールスと今回のキャッチコピーは関連していた方が良い。
委員	総合計画のキーワードが入っているのは良い。市長さんがどこかで挨拶などする時に言えるような言葉がいいのでは。
事務局	内容については理解されているということを踏まえて、ご相談させてください。
委員	報告書内のデータは2年前の白書からの引用を示すのではなく、現時点のものを出せば良いのでは。
事務局	まったくの引用ではなく、時点修正を加えています。
委員	最新のものにした方が良いのでは。
事務局	見直させていただきます。
委員	この形を出して構わないが、18 ページの本庁への各機能の集約化、1 番目の機能を重視して組織のあり方を検討する、2 番目に分散している機能を集約したいというのは、教育委員会と上下水道部を集約したいと言っているので、1 番目の機能優先の組織を検討するという事は違うのではないか。意見として聞いてほしいが。機能優先の組織編成を是非考えて欲しい。支所のあり方も大きく変わってくる。
委員長	32 ページの施設の状況とあって、「ソフト・」その後文字が消えていて、「ソフト・ハード」とつながるのだと思う。 34 ページ、図表の防災力評価結果の偏差値評価という所に、最後の欄がまちづくり評価平均となっているがこれでよろしいか。
事務局	整理させてください。
委員	いろいろ調べて図表があつて良いが、ちょっとわかりにくい。文字の近くにあつた方が良い図表はあつても良いが、それ以外は後ろに持っていても。
委員長	意見として聞いて、整理してください。
委員	豊川市の将来像について市民憲章の言葉もあるが、「将来像は…」は同じように長いのでつりあっているのでは。「新たな公共施設の価値を創出し」は入れておく意義があるのでは。

委員長	23 ページ、老人憩の家の欄に、施設譲渡が中心になっているが、ここだけ転用という文言が残っている。整合性を取った方が良いのでは。
委員長	素案ですので、本日の意見を踏まえてさらに変更することになるが、事務局はどう考えますか。
事務局	お気づきの点は近日中に電話やファックスでいただき、2月中に修正は行う予定です。内容の判断は委員長への一任ということでご了承いただければと存じます。各委員には報告書(案)としてご連絡します。このあと、(案)については3月末からパブリックコメントを実施していく予定です。
委員長	細かい修正は近日中にいただければということで、修正内容は私に一任いただいて、進めていきたい。

3 その他

事務局	委員の皆様、お忙しい中、予定を越える計6回の委員会にご出席ありがとうございました。熱心にご審議いただき、お礼を申し上げます。本日、最終のご審議をいただき、素案を概ね了承いただきました。ありがとうございます。公共施設適正配置計画は総論賛成だが各論反対という声も出てきます。目指す方向性、その精神で言葉を短くしたり、副題とすることは相談したいと考えています。前向きな方向性、重点取組、リーディング事業を提案としました。委員長と話し合い、最終的に修正し、市の内部でも調整し、3月議会で報告したいと考えています。3月末からパブリックコメント、6月には公表、と進んでいく予定になっています。来年度は下半期に、関係部署を集めてリーディング事業、地域住民などとワークショップを通じて事業を展開していく予定です。引き続き、ご指導をお願いしたいと思います。最後に今日までの策定委員会でのご苦心に重ねて御礼申し上げます。
委員長	無事に委員会を終えることができました。委員から、ニューヨークの事例の3つの視点ということで、住民との合意形成を図りながら啓発していくこと、住民と行政、住民と業者、橋渡しをしていくこと、形骸化の排除の3点を伺いましたが、今後そういったことに留意されて進めていただきたい。 ありがとうございました。

4 閉会